

# 第 62 回 酒田の人物史料展



明治の青春群像【明治30年代中頃・鶴岡にて写す・解説裏面】

開催期間 平成2年10月31日(水)～平成3年3月3日(日)  
開館時間 午前9時～午後4時30分  
休館日 毎週月曜日(当日祝祭日はその翌日)  
12月29日～1月3日  
入場料 大人100円・児童生徒50円  
身体障害者と65歳以上無料

## 酒田市立資料館

〒998 山形県酒田市一番町8-16  
TEL (0234) 24-6544

## ●開催にあたって

人はみな歴史的・社会的存在者としての業績をもち、ひとしく尊敬されなければならない。

ここに登場する人物は郷土や地域の発展につとめ、地域社会の各分野で、その発展向上に尽くした人々を中心とし、更に人類や国家・社会のために大きな役割を果たした郷土出身者のその人となりや業績の一端を順次展示・紹介します。

心広く、謙虚にこれらの先人の遺徳に学び、来たるべき二十一世紀をひらく活力の源泉を探りあてていただきたいものです。

### 酒田の人物資料展

#### 【本年度】

- ① 明治の青春群像(1880年代生まれの人々)
- ② 郷土史を彩る人々(明治以前)

#### 【次年度】

- ③ 社会の近代化に尽くした人々(明治・大正期)
- ④ 昭和期に活躍した人々

### § 1 . 明治の青春群像〔10月31日～12月27日〕

「歴史は人間によってつくられ、人間は歴史によって育てられる。」といわれます。発展途上国としての日本の1880年代に生を享け、日清・日露の両戦役の間に青春時代を過ごした郷土の若き群像たちが、いかに歴史的な存在者として、人間の主体的な役割を担って行動したか、それぞれの業績を通して、具体的に展示・紹介します。



●久村 清太(1880～1951)  
帝人会長・人絹の発明者

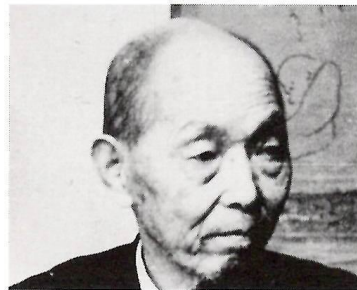


●齋藤巳之吉(1881～1965)  
第2代酒田市長





●大平 得三(1882~1962)  
医学博士・禁酒論者



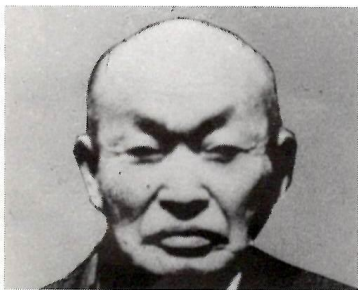
●甲崎 環(1882~1970)  
郷土史家



●丹波 恒夫(1883~1971)  
実業家・浮世絵収集家



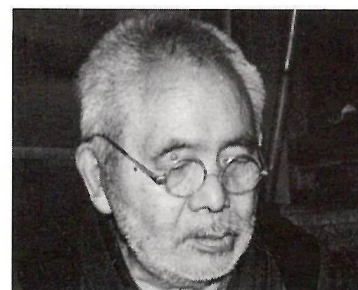
●久松 宗六(1883~1971)  
「酒田新聞」主筆



●富樫 雄太(1884~1956)  
稲の品種改良に尽力す



●池田亀三郎(1884~1977)  
石油化学工業の第1人者



●齋藤 兼吉(1884~1970)  
如齋・木工細工の名人



●伊藤吉之助(1885~1961)  
日本哲学学会の大御所



●小倉金之助(1885~1962)  
世界的な数学者



●青塚 恒治(1885~1958)  
地方自治功労者



●齋藤 辰(1885~1971)  
教育者・裁縫女学校の創設



●小山安之助(1885~1986)  
漆師の名人



●大川 周明(1886~1957)  
植民地開放の理論的指導者



●莊司修理之助(1887~1942)  
田園詩人「田家百絶」著者



●小島小一郎(1888~1960)  
農民解放運動家

●表紙写真——

荘内中学校の酒田出身者記念撮影。この中に久松宗六(4列右から3)青塚恒治(4列右から6)大平得三(2列左から5)池田亀三郎(3列右から2)小倉金之助(3列右から6)伊藤吉之助(1列左から2)等が顔を揃えている。『目でみる酒田市史』から





